# 令和２年度

# 大江町総合教育会議　会議録

期　日：令和２年 12 月 18 日

大江町教育委員会

1　招集年月日　　令和２年１１月１６日
2　招集の場所　　大江町中央公民館　多目的ルーム
3　開会年月日　　令和２年１２月１８日　午後３時
4　出席委員　　大江町長　　松田清隆
　　大江町教育委員会委教育長　　犬飼藤男
　　大江町教育委員会委員　　山家貴代
　　大江町教育委員会委員　　鴨田幸恵
5　会議に出席した者　大江町総務課課長　　五十嵐大朗
　　大江町立左沢小学校校長　　建部敦
　　大江町立本郷東小学校校長　　鈴木智香子
　　大江町立大江中学校校長　　清野均
　　大江町立左沢小学校教頭　　鈴木幹郎
　　大江町立本郷東小学校教頭　　髙砂晃
　　大江町立大江中学校教頭　　渡邊基
　　大江町立左小・大中藤田の丘教頭　荒井かおる
　　大江町教育委員会教育文化課長　　西田正広
　　大江町教育委員会学校教育主幹　　村山一彦
　　大江町教育委員会学校教育主査　　清野邦宏
6　協議事項　　（１）今後の教育振興に向けて
　　（２）大江町教育プランの実現に向けて

◎開会

○西田教育文化課長

令和２年度大江町総合教育会議の開催を告げた。また、今回校長会、教頭会からも参加をいただいているが、教育振興に向けて各般のご意見をお聞きしたいことから、合同の会議としたことを告げた。会議の主旨を議事録としてまとめ、町ホームページにより公表していくことを告げた。

◎あいさつ及び講話

○松田町長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、今後の教育振興に向けて講話をおこなった。

○犬飼教育長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、大江町教育プラン（第３次教育振興計画）の実現に向けて講話をおこなった。

◎情報・意見交換

○西田教育文化課長

次第３　意見交換をおこなうこととし、町長が座長となり会議を進めることを述べた。

意見交換

1、今後の教育振興に向けて

2、大江町教育プランの実現に向けて

○松田町長　今年は新型コロナウイルスの感染拡大があり、例年とは違う教育活動となりましたが、ぜひこの場でご意見を出していただき、今後の活動に活かしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

「教育振興に向けて」と「教育プランの実現に向けて」という議題が用意されていますが、切り分けて話すのが難しいということもありますので、普段から大江町の教育について感じていることや、先生方が常日頃考えている教育の在り方などについてご意見やご感想などをいただければと思います。

それではご意見をお聞かせください。

○山家委員　感動しながらただいまの町長のお話を聞かせていただいた。どこに感動を覚えたかというと、教育の全体像を把握しつつ、大きな流れを理解し、町長としてやるべきこと、考えていることを、私たちに分かるように提示してくれる姿勢に感動し、大変参考にもなった。

また新型コロナウイルス対策に関しても、学校と行政が一枚岩になって子どもたちを守ろうとしていることをお聞きし、その点に関しても感動させていただいた。個人情報を守りながら、すべての子どもたちに寄り添っていくことが大事だということがよく分かった。

加えて、他町の例からしっかり学んで、児童生徒に発熱の症状などがあれば、まずは休ませるという基本姿勢を守ることが感染予防の第一歩だということも理解できた。

さらに町長からは、「町長への手紙」として届いたというハガキの内容紹介があったが、大江町を離れても故郷を想い、変わらない大江町であるためには少しずつ変わっていかなければならないのだ、という青年の話をお聞きし、これからも本町出身の若者を支援する必要性を感じた。最終的にはサクラマスのごとく大江町に戻ってきてほしいものだなと思ったところです。

共生教育という考え方は、普遍的なものだと感じている。これを理念としながら大江町の教育はなされてきたが、これからも続けていき、人と人との関係性の中で人を育てていくことを全員で共有していかなければならないと思っている。

国際理解教育についても、乳幼児期から高校まで一貫して取り組んでいきたい

という考えを伺っており、やはりこれからは英語というものは身に付けなければならないスキルのひとつだと思うので、ぜひ力を入れてやっていただきたい。

町長からは先ほど「先生方を信じながら進めていく」という言葉がありましたが、子どもたち一人ひとりを大事にしながら、英語のほかにも子どもたちの基礎的な学力を高めるために、先生を信じて大江町の教育を進めていただきたいと思っている。

町の総合計画にあるとおり「ちょうどいい幸せ感じるまち」の実現に向けて、いい方向に動き出すような予感がするので、がんばっていただきたい。

○松田町長　続いて、学校現場の先生方のお話をお聞きしたいと思います。大江中、清野校長先生お願いします。

○清野校長　「ちょうどいい 幸せ感じるまち」という町の将来像については、とてもいいと思っている。これから進んでいく縮小社会の中で、今あるものをどう維持していくかを考えなければならない時代である。

学校教育の目標は「人格の完成」。それには「幸せ」をどう教育の中で伝えていくかということが大事。そのためには「信頼できる学校」を作ることが求められる。４年間大江中の校長として子どもたちに言い続けてきたのは、「あいさつをがんばろう」「君たちのあいさつはすばらしい」ということ。以前は、小学生の頃には一所懸命に地域の方にあいさつをしていても、上の学年になるにつれてあいさつしなくなる傾向があった。しかし、今の大江中生は純粋で、何事にも一所懸命取り組む。それを誉めてあげると、さらに胸を張って頑張ってくれる。

小さな学校ではあるが、誇りをもって生活できる子どもたちに育っている。自己肯定感もしっかり持っている。

修学旅行で上野公園での合唱を披露した時には、私自身が感動し、子どもたちに感謝したほどである。ＰＲ活動も堂々としており胸を打たれた。以前は恥ずかしがる子どもが多く、自己肯定感も低かった。そこから共生教育に取り組み始め、現在の調査によると８０％弱の生徒が自己肯定感を持っている。しかしまだ伸びると感じるので、もう少し高めていきたい。そして「ちょうどいい 幸せ感じる学校」を作っていきたいと思っている。

学校は毎日通ってくるところなので、継続性が大事になってくる。一発の打上げ花火のような教育活動ではいけない。大江町の英語教育はつなげていけるところが強みなので、子どもたちの中から国際的に活躍できる子どもが育ってほしい。

一方で、部活動は悩みが多かった。少子化の中で、部活動をどのように維持していくか。地域のスポーツクラブに任せるといっても、すべての受け皿がある訳ではない。学校の部活動の問題ではあるが、少子化と合わせて町の課題であるとも感じている。

部活動は生涯スポーツの基本であるため、子どもたちがスポーツを選択する道

が絶たれることは避けたいと考えているが、現実は厳しい。いつかは限界が来るため、今のうちから手を打っていく必要がある。

○松田町長　少子化については、学校の在り方、クラスの在り方についても今後考えていく必要がありますが、部活動もまた、今後どのように組み立てていくのか、ずっと悩んできた課題です。卓球クラブやスイミングスクールに通っている子どももいますが、総合スポーツクラブの立ち上げの時には、イメージとして部活動もそのような形になっていくのかなと思っていました。

子どもが減っている中で、検討課題はさまざま生じています。部活動についても今後、大きな問題としてとらえていきたいと考えています。

○渡邉教頭　共生教育とふるさと教育、そして国際理解教育という、大江町の３本の柱の考え方はすばらしいと感じている。その中で大江中の子どもたちは、人と人とのかかわり合いを大事に育っていると実感している。特に私は、地域と子どもたちのかかわりが大事だと思っているのだが、今年度はこのコロナ禍でうまく進められなかった。町の人が生徒たちにかかわってくれることにより、子どもたちは大きく成長するが、これからはそのかかわり方を考え直さなくてはならない時代だなと感じる。

私は、子どもたちとのコミュニケーションを大事にしていきたいと思っている。先ほど清野校長があいさつ運動の大切さを述べたが、私も同感であるし、周りとのつながりが感じられる生徒を育てていきたいと思う。

○松田町長　あいさつ運動も、小学校から引き続き、中学校でも力を入れてもらっています。左沢地区の方からは左沢小学校の子どもたちのあいさつが素晴らしいと褒められることが多いのですが、建部校長先生、いかがですか？

○建部校長　あいさつ運動は、これまでも力を入れてきたが、今年度はコロナで年度当初はそれほど力を入れられなかった。だから始めの頃は子どもたちに元気がないように感じられたが、ＰＴＡや交通指導員の方々が本当に頑張ってくださり、一所懸命に声掛けしてくださった。その結果、子どもたちも自信を持ってあいさつを返せるようになったなと感じている。本当に地域の方々のおかげであり、その力はかなり大きい。

スクールバスは、月が丘の子どもたちも利用することになったので、時間の関係上、これまでは菊地写真屋さんの前で下車していたものを、学校まで運行するように変更した。そうしたら地域の方々から、なぜバスが止まらなくなったのかと、ものすごく心配されて、お問い合わせもいただいた。地域の方々は、子どもたちの姿が見られなくなったり、声が聞こえなくなったりするとすごく寂しいという声をいただき、それだけ地区の方が見てくれているんだなと、あらためて実

感した。そういう意味でも、あいさつ運動は大事だし、学校としても力を入れてやっていこうと考えている。

また、大江町の学校のいいところは、精神的にゆったりできるところ。他の市町に比べると、本当によく分かる。これも「大江町らしさ」のひとつであり、この度の総合計画の「ちょうどいい 幸せ感じるまち」にも通じており、とてもいいなと感じている。例えば、慌ただしい生活の中では、読書する余裕さえもなくなってしまうし、何かに自分から取り組んでみようという気も起きなくなる。子どもたちに与える影響も違ってくると思うので、このまま変わらない大江町であってほしい。

話は変わるが、朝陽第一小学校の子どもたちが大江町に修学旅行に来たことをきっかけとして、左沢小の子どもたちとの交流が生まれている。手紙のやり取りなどを通じて、ふるさとの良さを見直す素晴らしい機会となったなと、あらためて思っている。

○松田町長　子どもたち同士のつながりが広がることは、すばらしい。現代は、その気になればネット上で顔を見ながらの交流も可能なので、ぜひ続けていただきたいと思います。それでは次に鴨田教育委員、お願いします。

○鴨田委員　私は常日頃から、子どもたちにとって「環境」はすごく大事だなと思っている。家庭や学校生活での心の安心、また地域の人たちの見守りの安心。「安心」という言葉が、教育の現場に見えることで、人間づくりができるものと思っている。

大江町の「ちょうどいい」が目指すところも、ちょうどいい安全安心な環境であればいいのではないかと感じている。

また心が安心するということは、環境が整っているということにつながるため、家族、家庭を含めてみんながゆっくりと、ゆったりとした気持ちで過ごせるということだと思う。そんな気持ちに余裕をもって目標に向かっていけるというところが、大江町らしくてとてもよいと感じる。

ぜひ、この安心感を町中に広げて、すてきなまちにつなげていきたいと思うし、その環境の中で育った子どもたちは一度町の外に出ても、また戻ってくることにつながるのではないだろうか。そしてその子どもたちが、またこの町をきっといい町にしてくれるのだと考える。

○松田町長　子どもたちが戻ってくるまでの基盤づくり、それは私たちの責任だと思いますし、行政としてキチッと守っていく、作っていく、進化させていくというのが我々の仕事です。そして子どもたちのその素地は、それぞれの学校で作り上げていくもの。若い人の絆、結びつきは学年ごとに作られると思いますが、町の成人式をきっかけとしてさらに強まると感じています。その姿を見ていると、やはりこの町で充実して過ごせるような環境を作らなければならないと強く強く感じるとこ

ろです。

続いて、本郷東の鈴木校長先生、お願いします。

○鈴木校長　大江町には２回目の勤務。先ほど来「ちょうどいい」という言葉が取り上げられているが、本当にいい言葉だと思う。しかし、人口推移の予測を見ると、すごい勢いで減っていき、子どもの数も激減する。どうなっていくのか心配だが、現在の本郷東小は、児童が少ないなりにも、とてもいい状態つまり「ちょうどいい」を作っている。子どもたちの学びの姿勢であるとか、地域の方々の協力であるとか、保護者のみなさんの姿勢であるとか、本当にちょうどいい状態であるなと感じている。

先週、町でコロナ感染の騒ぎがあり、今週子どもたちの状態が心配だったが、いつもと変わらない笑顔で登校してくれた。あいさつも、すばらしく元気にしてくれた。

保護者の方々からも、取り立てて問い合わせなども寄せられず、普段どうりの学校生活を送れて本当にありがたいなと思った。保護者も地域の方々も良識のある人なんだなと、改めて本郷東の良さを感じた。

左沢小学校に勤めていた時は「学校坂道」という学校のテーマソングのようなものがあり、その中に「ぼくの自慢の学校」という言葉が出てくる。私自身その言葉がすごく好きで、本郷東小の子どもたちにもよく「自慢できる学校を作っていこう」と呼び掛けている。そして子どもたちはもちろんだが、先生も保護者も地域の方も、みんなが自慢できる学校を作り上げたいと思い、今頑張っているところ。そしてそれが延いては子どもたちがこの町に戻ってくることにつながるのではないだうか。

また大江町教育プランの中で、図書館の充実が謳われていて大変ありがたいなと感じている。テストの中で、文章がたくさん並ぶ問題があると子どもたちは途中で読むのがイヤになったりして、読解力不足を感じる。しかし読書したからといって、すぐに読解力に結びつくかというとそうではないので、地道に続けていかなくてはならない。だから図書館の充実というのはとても大事なことだと思う。

本校では読み聞かせ活動が充実していて、子どもたちも落ち着いて生活ができるので、次は図書館を充実させられれば子どもたちの学習にも幅が出てくるのではないかと思っている。

学力対策についても、先日会議をおこなったが、家庭学習の充実も大事だということで、来年度は家庭との連携をより深めて、子どもたちの実力が伸びるように頑張っていきたい。

○松田町長　コロナの関係では、保護者の方々から学校を信じていただいて、良識的な行動をしていただいたものと考えています。ただ、現代において恐ろしいのは、ＳＮＳによる誤った情報の拡散。見えないところで正確ではない情報が広がることは

本当に恐ろしいと、この度あらためて感じました。

○清野校長　中学校にも問い合わせはまったくなかった。山形市の学校関係者にこの話をすると驚かれる。すごいことだと。

○西田課長　教育委員会でも待機していたが、コロナの問い合わせは１件もなかった。

○松田町長　県内の他市町でも、コロナに限らずクレームなどは多いと聞きます。それに比べると、大江町は何度も言うが良識ある行動ができる町民が多いと感じています。一緒に考えていただいているのだなという感じを受けます。

また図書館の話がありましたが、教育委員会からも学校図書に関しては町立図書館との連携や更なる充実が必要だということを訴えられ続けています。しかし今は校舎の改修などで教育関係には多くの予算を割いているという現実もあり、町政のバランスの中では正直、まだ我慢していただきたいと思っていましたが、先生方の話を直接聞くと、心に訴えかけられるものがあります。

自慢できる町、自慢できる学校という意味では、実は大江町は自慢することがあまり得意でない町民性ではないかと感じていたのですが、今、若い方々からはもっとＳＮＳを活用して町の良いところを発信すべきだとの声が聞かれるようになりました。これからは町の情報をもっともっと分かりやすく発信するとともに、子どもたちにもこの町の良いところ、自分の良いところを見つけてもらい、どんどん発信できるような教育をお願いしたい。

○鈴木教頭　２年目になるが、先ほどから何回も出ているように「ちょうどいい」という言葉は、大江町にしかないものがそこに隠れているような感じがする。多くの市町を回ってきたが、この町は確かに居心地がいい。

子どもたちは普段は特に意識はしていないが、社会の学習の中で大江町の副読本を使って勉強したりすると、町の良さを強く感じているようだ。なので、普段からもっとこの町のことを意識しながら育てていくようにしなければならないなと思っている。

○高砂教頭　３年目になるが、保護者だけでなく、地域の方々もみんな学校のことを理解してくれると感じている。今年はコロナで保護者の方々からも学校に来ていただく機会が減り、学校の情報が伝わりにくくなったと心配していたが、学校に批判的なことなどまったくないし、逆に「よろしくお願いします」という手紙などもあり、本当にありがたいなと思う。

子どもたち同士もそうだが、保護者、地域がすごく近い関係にあり、良い関係性を保っていると思う反面、先ほどもあったとおりＳＮＳは見えないとこで広がるので、普段から例えば「相手の嫌がることはネット上でもしてはいけない」等のことを常に教えていかなければならないと感じている。

規模の大きい学校だと、ちょっと冷たくて嫌な一面もあるのだが、大江町の学校は嫌な感じもなく、こちらの情報もうまく伝わる。子どもたちが将来大江町に戻ってくる素地を作るのが小学校教育だと思っているので、今から町のよさ、地域の良さを伝えていくのが自分たちの使命である。

○松田町長　本郷東小は、運動会を見ても分かるとおり、子どもだけでなく保護者も地域も一体となって楽しんでいる感じがします。地域の方が学校に対して一所懸命に働きかけているということが、本当によく感じられます。そういう関係性は大切にしていかなければならないと思います。

○荒井教頭　今年教頭となり、初めて大江町に赴任した。本当に温かい町だなと感じながら毎日仕事をさせていただいている。教育委員会の学校訪問でも、学園の子どもたちに委員の方々から温かい言葉をかけていただき感謝している。

今年、子どもたちは町の良いところを見つけるウオークラリーを実施した。最上川や日本一公園からの景観を見たり、防空壕を見学させていただいたりした。

その過程で、町の人々からたくさんお声を掛けていただき、子どもたちが満足して帰ってきた時の表情が忘れられない。

また教育プランの中で、自己実現と共生という言葉があるが、自分のことを大切にできて、そのうえで相手のことも思いやりながら共に生きていくという考え方は、学園の子どもたちの指導方針にピッタリだなと思い、先生方とも共有したいなと考えている。

○松田町長　最後にまとめますが、そもそもこの総合教育会議は、町と教育委員会の連携というか、つながりを大切に、すり合わせをしながら同じ方向に向かって一緒に進んでいこうというのが、趣旨だととらえています。なので、私も学校に足を運びたいのですが、この状況の中なかなか行くことができないでいます。今は学校に迷惑をかけることはできませんが、近いうちに行ってみたいと思っているので受け入れていただければありがたい。その時にまた、学校の実情なりを教えていただき、一緒になって考えるようにしたい。そうやって整理していければよいと思っています。

タブレットは１月中に導入しますが、先生方には少なからず負担をかけると思います。しかしせっかく導入するのだから、教育委員会とも連携を取り合いながら、ぜひ子どもたちのために活用していただきたいと思っているところです。諸外国に比して日本のＩＴ教育は遅れていると聞くので、学校教育においては専門家の意見も取り入れられるような体制を教育委員会とともに築き、活用できるような体制を作っていただきたいと思います。

また新型コロナウイルスについては、情報管理も含めて、教育委員会、学校、行政と連携し、とにかく保護者の方々に心配を抱かせないような体制を作ってい

くことが大切だと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。
本日はありがとうございました。

◎閉会

○西田教育文化課長　　総合教育会議を終了することを告げた。

閉会　午後5時00分